



PipeLine

特集

導入科目群…大学での学びかた科目

学びの意義、受講にあたってのアドバイス等



大学基礎論

学問基礎論

課題探求実践セミナー

No.65 Contents

特集 導入科目群:大学での学びかた科目	P1~11
共通教育実施委員会FD部会 教養科目の意味	P12
学務課 全学・共通教育係より	P13

大学基礎論

学びの意義、受講にあたってのアドバイス等



人文社会科学部

岡田 健一郎

人文社会科学部・社会科学コースの大学基礎論

人文社会科学部の大学基礎論の実施方法は3コースごとに異なっています。今回は社会科学コースの大学基礎論についてご説明します。

2022年度まで、社会科学コースでは大学基礎論は少人数のゼミ形式で実施していましたが、2023年度からは講義形式（受講生約100名）に変更しました。そのテーマは大きく分けると「大学での学びのための基本スキル」と「大学生活を安全に過ごすためのスキル」の二つです。前者はレポートの書き方や資料の探し方など、これからの大学での学習に必要な基本スキルを身につけることです。後者はメンタルヘルスやデートDVなど、私生活を安全に送るための知識を獲得することです。

そして授業の形式は以下の3種類に分けられます。

- (1) ゲスト講師の授業：2025年度は高知県消費生活センター（消費者問題）、高知労働局（労働法）、高知県警（デートDV）、高知県選挙管理委員会（選挙）から講師を招いてお話を伺いました。
- (2) オンデマンド型の授業：本学のmoodle上で提供されているオンデマンド型コンテンツである、アカデミック・ライティング、eポートフォリオ、キャリア開発（いずれも学び創造センター）、インクルージョン（インクルージョン支援推進室）、図書館ガイダンス（図書館）を学生に各自受講してもらいました。
- (3) 教室での対面授業：全受講生に、10名程度ずつのグループに分かれ、「大学での学びとは」などのテーマについて議論・発表してもらいました。また、2回に分けてメディアホールに受講生が半数（約50名）ずつ集合し、小グループで館内を回り資料検索などを行うグループワークも実施しました（図書館のみなさまには大変お世話になりました）。

その他、大学生活についてのコース長からの講義、総務省の教材を使った生成AIに関する講義なども行われました。

この授業はコース外の多くの方々のご協力により、比較的少人数の教員（2名）で担当することができています。ここに改めてお礼申し上げます。

教育学部

辻 尚実

教育学部の大学基礎論

新入生の皆さんに、教育学部(学校教育教員養成課程)の初年次科目のうち、1年次第1学期の必修科目である「大学基礎論」をご紹介します。教育学部における大学基礎論は、「充実した大学生活・人生を送っていただけるよう、大学4年間でどのようなことを身につけることが大切かを学べる授業」です。具体的には、以下のようなことを身につけてもらうことを目的としています。

- ① 大学での学び(課題探求)とは、どのようなものかを知る
 - a) 自らの実践的指導力という課題をめぐる探求
 - b) 今日の学校教育現場における諸課題をめぐる探求
- ② 自らのキャリア(4年後、それ以降)をイメージし、自己省察を図る
- ③ 地域における大学・学部の位置づけを理解する
- ④ グループワークの手法を身につける

教育学部は教員養成を主とする学部ですので、皆さんに「具体的にキャリアをイメージ」してもらえるように、学内の先生のみならず、現職の先生方や教育委員会の方々をお招きして教育の最前線についてお話ししていただきます。令和7年度の授業から、特色ある授業回のテーマを挙げます。

- 教師という仕事
- 教員の働き方改革
- デジタル化時代の教育DXと知の深化×探索力
- 学校現場とICT
- 発達障害の理解と支援
- 教員採用選考について

以上のように、教師という仕事のやりがいや課題、働き方改革の実際、教育DXやICTの活用、発達障害、そして3年後に控える教員採用試験など、学校現場を取り巻く話題を幅広く扱っており、皆さんが教員を目指すにあたって重要な点を、入学してすぐに見据えることができます。また、この授業は教育学部生全員が受講し、10名前後のグループに分かれて活動します。グループワーク等によって他の学生と意見交換する機会があるため、教育を多角的に捉えることができるとともに、1年生同士の繋がりも生まれる、魅力的な授業です。人間関係を広げ、教育への豊かな視座を得られるよう、ぜひ積極的な姿勢で参加してください。

理工学部

加藤 治一
(学務委員長)

大学基礎論(理工学部) 紹介

新入生の皆様、こんにちは。大学生活はどうでしょうか？ 高校時代とは授業のやり方・内容・私生活…と色々なことが違うことと思います。是非、新しい世界に触れて、ぞんぶんに満喫してほしいと願っています。共通教育では、皆様が大学での学習をスムーズに始められるよう、導入科目群として1年次にいくつかの科目を配置しています。ここでは「大学基礎論」について、特に理工学部の例をとって紹介します。

「大学基礎論」(理工学部)の大きなテーマは「教わる」から「学び取る」への姿勢の転換です。大学では学ぶべきことは数多くあるし、内容も高度になります。自分が面白いと思えることを選び取り、自主的に「学び取る」意欲を持たなければ身になりません(そして楽しくありません!)。「学び取る」姿勢を持つためには具体的にどうすればよいか？ それを探っていくのが本授業です。

理工学部では、全15回の授業を3つのフェーズに分けています：(1)大学紹介 (2)講義とグループワークの組み合わせ (3)プレゼンテーション。

(1)では、大学の活用できる施設を紹介します。せっかく学費を払っているので、授業だけでなく、使い倒しましょう！

(2)では、単に講義を聞くだけでなく、それとグループワークを組み合わせます。学生同士で話し合うことで、講義を自分ひとりで受けるだけではわからなかったことや、自分にはない視点に気づきを得てほしいです。(次頁に続く)

(3)に関連し、何かを理解するときには、そもそもの目的(なぜこれを知りたいのか?)や、自分にとって重要なところはどこかを意識して聞くことが重要です。特に、将来のアウトプットに備えて聞くことで、より深い理解が得られます。授業の最後に配置されたプレゼンテーションに向けて準備する中で、“学び取る”意識を身に付けてほしいです。

皆様の4年間の大学生活が有意義なものでありますようお願いしています。是非多くのことを“学び取って”下さい。



大学基礎論(医学部)

医学部の大学基礎論は、医学科と看護学科が共同して行う授業と、各学科で独自に行う授業があります。

医学科では、入学した直後であることから、一緒に入学した仲間を知ることから始めていきます。医学科は入学から卒業までほぼ同じ数多くの必修科目を履修していき、6年間の課程を終えるため、ほぼ毎日のように同じ教室で顔を合わす関係になります。そのため、最初にお互いのことを理解し、円滑に学生生活が送れることが期待されます。また、それらに加えて、大学生として必須となるアカデミックライティング(全学の共通授業を利用)を学んだりしています。

看護学科では、大学生として必要な作文力、プレゼンテーション能力の向上をめざして、医学科と同様に全学のアカデミックライティングから始まり、看護師に求められるものをグループワークを通じて考えたりしています。

また、大学基礎論では、同じ岡豊キャンパスにある医学科と看護学科は近い関係にあるため、合同で学ぶ授業も行っています。来るべき南海トラフ地震に備え、災害・救急医学講座の協力を得て、基本的な救急活動について医学科と看護学科が合同で授業を行っています。包帯の扱い方、患者搬送、罹災者のトリアージ、岡豊キャンパス内の災害対策設備の見学などを通じて、医学生・看護学生として何が求められるのか知り、いざというときに実践できるようになることを目的としています。この実習の後、医学科と看護学科の学生で混成グループを作り、実習を通じて学んだ事をディスカッションし、お互いの職種の違いや協力体制について考えます。

大学基礎論は知識として学ぶ事もありますが、実際に身体を動かして体験したり、仲間と話すことで机上では学べない内容も多く詰まっています。





農林海洋科学部

中村 洋平

大学基礎論（農林海洋科学部）

大学基礎論は、新入生にとって新しい学習環境に慣れるための場であると同時に、大学での学びの方向性を考える大切な機会でもあります。ここでは、農林海洋科学部における大学基礎論の学びのねらいを紹介します。

高知大学では、大学基礎論の授業目標として、①「教わる」から「学びとる」への学びの姿勢の転換、②キャリアデザインの構築、③社会における大学や学問の位置づけの理解、の3点を掲げています。また、これらの課題についてグループワークを通して考えることで、学生のコミュニケーション能力の向上や、議論の進め方・合意形成の方法の修得も目指しています。

農林海洋科学部ではこの方針に基づき次のような授業を行っています。

- 二つのテーマでのグループワークと発表（第1クール：学びの場としての高知大学や高知県の魅力／第2クール：農林海洋科学部での学びによる社会貢献）
- 農林・農芸・海洋の各分野に関する授業とレポート課題
- キャリア形成講義、アカデミックライティング（レポートの書き方など）

授業では、2学科3分野（農林・農芸・海洋）の学生が分野横断的に学べるよう工夫しています。グループワークでは、5～6人の班ごとに発表内容を決め、情報を収集してスライドを作成し、全員の前で発表します。さまざまな興味や考えをもつ学生同士が意見を交わすことが重要であるため、各班には3分野の学生が混ざるようにしています。

第1・第2クールの発表を通して、学生たちは学びの場としての高知大学や高知県の強み、そして学問としての農林海洋科学の意義と魅力を幅広く理解できます。各班の発表がオリジナリティにあふれ質が高ければ、そこから得られる学びもさらに深まります。つまり、学生たちは自分たちの手で授業を作り上げることができるのです。大学基礎論を通して、主体的に学ぶことの楽しさに気づけば、高知での大学生活を有意義に過ごせると思います。

大学での学び方とキャリアをデザインする『大学基礎論』

大学基礎論は、平成20年の科目設置当初から現在に至るまで、下記のような全学共通の目標を掲げています。

- ① 大学で学ぶことの意義と目的を考え、「教わる」から「学びとる」へと学びの姿勢を転換する。
- ② 卒業時に自分がどうなっていたいか、どのような能力を身に付けるべきかを考える。
- ③ 社会における大学や学問の位置づけ、高知における高知大学の存在意義について考える。

これは、高校での学び方と大学での学び方の違いを理解してもらうと同時に、大学入学がゴールではなく、むしろ、新たな出発点であり、また、大学という場を活用しつつ、自分がどのような人生やキャリア形成を目指すのかを考えてもらう機会として位置づけています。

これらをふまえて、地域協働学部では、「これからの学びと卒業後のイメージを広げる」ことを授業のテーマとし、学部での学びと社会のつながりや、学びを通じて得られる力をどのように活かしていきたいか、また、学部名称にも含まれている「協働」と学びとの関係について、個人ワークやグループワークを通して、主体的、協働的に考えてもらいます。

また、地域協働学部の学びの特徴として、実習とそれを土台にした研究が1年生からスタートします。それに向けて、研究のルールを理解する研究倫理や、論文やレポートを書くために必須のアカデミック・ライティングをしっかりと学びます。大学入学以前にもこれらを学んでいる方は多いと思いますが、高校までの学び方との違いを実感する場にもなっています。さらに、キャリア形成に関して「地域協働マネジメント力」をどのようにして身につけ、それを活かすかについて、卒業生の経験から学ぶ機会がこの授業にはあります。

大学の学びは、学生の皆さんの将来に大きな影響を与えるだけでなく、可能性を広げるチャンスでもあります。「大学での学び方科目」はそれぞれそのスタートとして、地域協働学部のカリキュラムの中で大切な役割を持っています。単なる授業としてだけでなく、自身の学びのスタイルの確認の意味でも、楽しみながら受講してください。



地域協働学部

石筒 寛



導入科目群：大学での学びかた科目

学問基礎論

学びの意義、受講にあたってのアドバイス等



人文社会科学部

渡邊 裕子

国際社会コースの「学問基礎論」

人文社会科学部国際社会コースの「学問基礎論」をご紹介します。

国際社会コースの特徴の1つは、2年生からゼミに所属することです。ゼミとは、1名の指導教員のもとで1つの専門分野に関して少人数でじっくり学ぶ授業のことです。2年生から3年生の期間しっかりと1つのことを極め、最終的には4年生で自分をもっと深く学びたい・考えてみたいと思ったテーマを卒業論文という形で発表することがゼミの目標となっています。

このようにゼミは皆さんの大学生活における学びの基軸となるものであり、国際社会コースは2年生という極めて早い段階からゼミに所属して3年間をかけて学びを深めていくことを特徴としています。しかしこのように重要なゼミを、まだ大学1年生の皆さんにいきなり決めてもらうことはとても難しいことでしょう。そこで、皆さんのゼミ選択の助けとなるのが「学問基礎論」です。

まずは1年生全員で、教員による「ゼミ紹介」を聞きます。ゼミ紹介では教員が各ゼミの内容や授業計画、所属学生に求める資質などを説明します。その後「ゼミ分属交流会」を行います。交流会では特に興味の惹かれた専門分野のゼミを6つ選んで回り、ゼミの雰囲気を確認したり、先輩の話を聞いたり、教員に質問をしたりして選択肢を絞っていきます。最後に2025年度には「研究室訪問」という内容も行いました。研究室訪問は、自身が最も関心のあるゼミ教員を少なくとも1名選び、その教員の研究室を訪問して1対1で教員とじっくり話をしたり、研究室の雰囲気を感じ取ったりする機会です。第1希望と第2希望をどちらにするかなど悩んでいる学生も多く、自身が悩む理由を教員と確認し合うことでゼミを悔いなく選ぶ最後の機会を設けました。このように国際社会コースの「学問基礎論」は、大学における学びの基礎を固める機会であり、自分がどのようなことに興味を持っているか、将来はどのような卒論を書いてみたいかなどの展望について皆さんに考えることを求める授業となっています。



教育学部

宮本 隆信

教育学部の学問基礎論

教育学部の学問基礎論では、教育学部における専門的な学びのイメージを形成することをテーマとして、具体的なねらいを下記3点設定しています。

- ・私は、なぜ、どのようなことを、どんなふうに学びたいのか？
- ・教育学部において、どのような専門的な学び(学問)に触れることができるのか？
- ・学びを進める際に求められる遵守すべき学問的ルールとは、どのようなものか？

以上のねらいを具体的にすると、次の授業で次の目標に到達することを目指しています。

- ・教育学部で自身の学びたいことを明確化できる
- ・教育学部の専門的な学びを説明できる
- ・学問の基礎的なルールを説明できる

授業のねらいと到達目標のための授業計画は、大きく3つのフェーズで展開されており、1)これまでの学びとこれからの学びを考える。ここでは、高校までの学び方と大学での学び方の違いや教育との関連について、共有しながら学ぶ。2)教育学部での専門的な学びを知る。ここでは、自分の考えている教育分野だけでなく、教育学部で学べる専門的な学びについて、深掘し、共有することで、同じ教育学部でも多様な教科における視点を形成しながら、専門的な学びにつなげていくことを意識する。3)学問の基礎的ルールの理解である。ここでは、大学での学びとしてのアカデミックライティングなど専門の学びに必要なルールを学んでいく。それぞれのフェーズでは、個人ワーク、グループワーク、グループ間共有、全体共有という流れで学修をすすめており、まず個人で学修し、グループで討議しながら共有し、他グループを含めたグループ共有をし、個人、グループでの成果を上方修正しながら、全体共有している。その中で、個人プレゼン、グループプレゼン、討議、共有することで、教育学部の学んでいくことの意義、意味などを考えていくものとなっている。これらの学びを通して、大学での4年間の学びがより主体的なものへと変化していく機会となることを願っています。



理工学部

瀬木 大介

学問基礎論と "Right time, right place"

脳科学や心理学、行動経済学で取り沙汰されるヒトの意思決定の傾向として、損失回避(loss aversion)というものがある。これは、量的に同じ「利益」と「損失」とがあった場合、ヒトは利益を享受する喜びよりも、損失を背負う苦しみの方を、より心理的に大きく感じる、という傾向を示す言葉である。つまり、あなたが期せずして親類から手渡されたお小遣いの千円札と、あなたが買い物に向かう道中で落として紛失してしまった千円札とでは、物理量と貨幣価値こそ等価ではあるが、それらの情緒的な価値や、イベントに伴う精神的動揺の絶対値はイコールにならない、という話である。

思考に潜む損失回避の機序は、ときにヒトの判断を大きく狂わせる。たとえば、登山家の遭難のケース。山登りにおいて「道に迷ったら引き返す」というのは守るべき鉄則として有名であるが、ことのほか、引き返すことに伴うコストは大きい。この道を少し進めば目的地かもしれないという期待が僅かでも残っている状況において、あえてその可能性を否定し、労力にレバレッジをかけながらスタート地点に戻るという選択に踏み切るのは生半ではない。結果、プロの登山家ですら、正規の下山コースに辿り着くことなく遭難し、やむなく命を落としてしまう場合も少なくないと聞く。

翻って、この文章に目を通してしている新入生の皆さんは、数々の初年次科目に触れ、フラットな状態で「自分が立ち返るための基本」について学び、培い、身につけるためのスタートラインに立っているのだと思う。年齢なりに、しがらみと逡巡と贅肉を蓄えてしまった大人の教員の目に、そんな皆さんの姿は、少し羨ましく、そして眩しく映る。【学問基礎論】の内容は各学科によって異なるので、ぜひシラバスに目を通して、授業で出会うであろうあれこれに胸を躍らせてほしい。そして、然るべき時、然るべき場所に自分がいることの意味と幸運に、ときおり思いを馳せながら、はじまりの科目である【学問基礎論】を楽しんでいただけたらと思う。



医学部

藤田 博一

医学部の学問基礎論

医学部では、医学科と看護学科のそれぞれにおいて、学問基礎論の授業を行っています。どちらも、医療者として活躍するために必要となる基本的な内容が学べるような内容になっています。

医学科では、医師として必須となる「行動科学」という言葉をキーワードに授業を企画しています。「行動科学」という学問は、人はどのような行動をするのか、なぜそのような行動をするのか、といった疑問に心理学、医学、生物学、社会学など多彩な領域の視点から考えていく学問です。将来、医師として患者さんとコミュニケーションを取っていくときに必要な基本的な考え方を学んで欲しいと考えています。具体的には、「脳の構造と働き」「記憶」「学習」「行動と疫学」「行動変容(ニコチン依存)」「知覚力」「感情」「睡眠」「ストレス」「物質依存」「土佐の医学史」といった幅広い内容を扱っています。これらの授業を通して、「どのようにしたら患者さんが病気のことを理解してくれるのだろうか」「どうやったら食事の制限を守ってくれるのか」といった日常の臨床でみられる問題に対して、どうやってアプローチしていけばよいか考えるためのヒントになると思います。

看護学科では、これから学ぶ専門分野や研究テーマの輪郭を学ぶことを目的としています。看護を理解するために必要な医療・福祉活動について知り、看護の専門教育で必要となる基礎的な知の技法を身につけることが期待されています。具体的には、「環境と子ども」「仕事と学問」「高知大学で学ぶ高知県のへき地医療の実際」「看護に必要なコミュニケーションスキル」「仲間と学ぶ意義」「防災意識と健康づくり」「看護職とキャリア」など、多岐に渡る話題を学び、その後の専門教育へつなげる授業が行われています。



農林海洋科学部

松川 和嗣

農林海洋科学部の学問基礎論

農林海洋科学部は、農林資源科学科および海洋資源科学科で構成され、さらに農林資源科学科はフィールド科学コース、農芸化学コース、海洋資源科学科には海洋生物生産学コース、海底資源環境学コース、海洋生命科学コースに分かれている。学問基礎論において、それぞれのコース単位で授業を実施しており、以下、各コースでの講義の特徴をあげる。

農林資源科学科 フィールド科学コース

初年度学生に担当教員もしくは外部講師による学問論の講義を聴講し、これらを参考としてグループワークによるディスカッションを通じて自身のこれからの学びのスタイルを設計し、目標とする学びの達成に向けた具体的イメージを獲得する。

農林資源科学科 農芸化学コース

グループワークを通して、農芸化学分野のさまざまな事例について分析することで、農芸化学分野の基礎について学ぶ。

海洋資源科学科 海洋生物生産学コース

海洋(特に水産)関係の諸分野における基礎的な知識を得て、学習意欲・興味を向上させる。

海洋資源科学科 海底資源環境学コース

受講生が海底資源環境学コースで学ぶために必要な基礎的な知識および教養を身につける。また、レポート作成に必要なアカデミック・ライティングや、将来の進路について考えるキャリア教育を実施する。

海洋資源科学科 海洋生命科学コース

海洋生命科学分野の概要を理解し、関連する研究・調査を行ううえで必要な知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現力の涵養を行う。

地域協働学部

中澤 純治

地域協働学部の学問基礎論

地域協働学部の「学問基礎論」は、大学での学びの基盤を形成するとともに、地域で求められる協働実践の素地を育てる科目です。本授業では、地域課題の理解、コミュニケーション、共感、情報収集、読解、状況判断など、協働の場に不可欠な基礎力を体系的に身につけます。ガイダンスから始まり、地域協働の意義、実習における協働、アカデミックライティング、キャリア理解、研究における協働など、段階的に「学ぶ姿勢の転換」を促す構成としています。これらは分科会全体で共有されている、「教わる／教える」から「学び、問いを立て、伝える」への移行を重視した学びの姿勢と一致しています。

授業内ではグループワークを中心に、多面的な見方を意識した討議や課題に取り組みます。正解のない問題に向き合い、他者と協働して答えを創り出すプロセスそのものが、地域協働学部の実践型教育の核心です。語彙や日本語表現、論理構成といったアカデミックスキルも並行して鍛えることで、将来の研究・実習・協働実践に直結する力を養います。地域協働教育推進会議主催の社会人師匠講座や外部専門機関が提供する自己理解プログラムを活用し、大学外の視点を受け取る機会も豊富に設け、学びが社会につながる実感をもてるよう設計しています。

学生の皆さんには、本授業を通じて次の三点を特に大切にしてほしいと考えています。

- ①自分の経験や関心を言語化し、学びの軸をつくること。
- ②課題の本質を多面的に理解し、他者と協働して価値を創り出す力を磨くこと。
- ③大学での学びを将来のキャリアにつなげる視点をもつこと。

これらは在学中だけでなく、社会に出てからも必ず役に立つ能力です。

地域協働学部での学びは、皆さんの主体性によって大きく深まります。ぜひ積極的に参加し、新しい自分の可能性と出会ってください。皆さんの成長を楽しみにしています。



課題探求実践セミナー

学びの意義、受講にあたってのアドバイス等

人文社会科学部

宮里 修

人文科学は人間を対象とした科学である、すなわち人間についての知識を広げ、深め、洞察する学問的営みなのだ、として人文科学コースの課題探求実践セミナーは開講されます。

哲学、心理学、文学、言語学、歴史学、考古学、人文地理学など人文科学コースを構成する様々な学問は、ひとしく人間を対象としながらも、人間に向ける眼差しにはそれぞれに特徴的です。学生らはいずれ、4年間の学びの集大成である卒業論文と格闘し、人の営みについての何かを探究しますが、その際どの学問分野において取り組むのかはとても重要です。

学生らはそれぞれの関心、学問に対するイメージをもって大学での学びをスタートさせますが、多くの場合イメージと実態のギャップを体験します。高校までの勉強と大学での学びは大きく異なります。高校までの勉強はそれまでに達成された学問的成果を受けとる学びです。一方の大学では学問的成果を得るための方法や考え方を学び、解決すべき問題を知って具体的な課題に取り組みます。

人文科学の諸分野がどのような資料を用い、どのような方法で、何を考えるのかを知ることが、その先の学びを充実させるために必要です。人文科学コースの課題探求実践セミナーでは学生らが自分の関心に応えてくれる分野を見つけられるよう「人文科学講義」を行っています。人文科学講義は、設定した共通テーマに対して、各分野がどのような資料を用い、資料から何を読みとって、テーマについて何を考えるのかを示すものです。受講した学生は、同じテーマ設定から展開する異なった内容を比較することで各分野の特徴を知ることができます。現在は「仕事」を共通テーマとして進めています。各回の授業ではまず40分程度の「仕事」をテーマとした人文科学講義が行われます。聴講後、学生らはまず個人で内容を整理します。その後グループとなって理解を示し合い、グループ毎に整理した内容を全体に向けて発表します。講義の回数を重ねた後に複数分野を比較する機会を設けます。学生らは比較を通じて各学問分野の特徴を知り、自分に合った分野を見つける手掛かりを得ます。

教育学部

金 奎道

教育学部の「課題探求実践セミナー」(導入科目群)では、本学部の附属学校園や高知市内の小・中学校において、学習支援活動を中心としたインターンシップに参加します。そこで得られた体験を省察することを通して、幼児・児童・生徒の学びや成長を捉えるとともに、保育や学校現場の実態を把握し、さらに「教師として集団を動かす力とは何か」について考察を深めることを目的としています。

教育学部では、4年間を通じて観察実習、教育実習、応用実習、幼稚園実習(幼児教育コースの学生対象)など様々な実習系授業を受けることができますが、この課題探求実践セミナー(別名「学校インターンシップI」)は、その4年間の学びのスタート地点となる科目ともいえます。

さて、なぜ1年生から学校現場を体験することが重要なのでしょうか。社会の変化が大きい現在、学校を取り巻く環境も変化しており、皆さんが学校に通っていた頃とは異なる点が数多く見られます。そもそも学校といっても、地域や規模によってその姿は少しずつ異なります。特に高知では、少子化やへき地にある学校の実情から、子どもたちの学びを支える仕組みや先生方の働き方にも独自の課題が存在します。こうした現状を知り、実際に体験を通して考えることは、教育の多様性や学校の果たす役割を捉えるうえで貴重な機会となるでしょう。

2025年度は、教育学部附属学校園に加え、高知市立小・中学校10校の協力を得て、学校インターンシップ活動を実施しました。活動後には、アドバイザー教員の指導のもと、班ごとに省察活動を行います。ここでは、学生が各保育・教育現場で作成した「エピソードメモ」(インターン活動や学習支援の中で印象に残った場面を主観的に記録したもの)を共有し、振り返りながら学びを深めます。最終的には、1月下旬に開催されるシンポジウムにて成果をプレゼンします。皆さんも、機会があればぜひ参加してみてくださいはいかがでしょうか。

医学科

黒江 崇史

「課題探求実践セミナー(医学科)」は、これから始まる医学を志す学生生活において、専門分野への導入と、将来医師として不可欠な能力を養うための土台となります。この授業の主眼は、シラバスに記載の通り、医療現場における問題解決能力の基礎を習得することです。そして、この学びは皆さんが「これから生涯にわたって医学をどう学んでいくのか?」を考えるための重要な機会を提供します。

授業は二つの段階で構成されています。まず、授業前半では「医学入門」として、後の課題探求セミナー(グループワーク)で必要となる血液に関する基礎を、講義を通じて学びます。これは、入学直後に医学の知識に触れる絶好の機会となり、さらには、グループワークに必要な基礎知識の修得や文献検索の準備となります。授業後半では、これらの基礎を土台として、実際の医療現場に関連するテーマを用いたグループワークに取り組みます。特に、このグループワークでは、献血現場で直面する具体的な課題をグループごとに同定し、その解決方法を多角的に検討していきます。この実践的な学習を深めるため、実際に第一線で働く医師からの特別講義を受ける機会が設けられます。グループワークでは、課題の同定や分析、解決プランの立案を行います。最後のプレゼンテーションでは、教員や同級生に加え、現場で働く職員の方々も含めて発表を行い、実務者からの具体的なフィードバックをもらえる貴重な機会があります。この過程で、皆さんは「論理的思考力」「課題探求力」「コミュニケーション力」「協働実践力」といった、医療を担うために不可欠なスキルを身につけることが期待されています。医学科ではカリキュラム変更が予定されており、本授業の内容も今後一部に変更がある可能性もありますが、「医療現場における問題解決能力の基礎を習得する」という主眼は変わりませんので、新入生の皆さんはぜひ授業を楽しみにして下さい!



農林海洋科学部

村松 久司

農林海洋科学部の課題探求実践セミナーでは、「フィールドサイエンス実習」という副題のもと、入学したばかりの皆さんに農林海洋科学の現場(フィールド)を幅広く体験してもらいます。この授業では、教職員が提供する実習や学生同士のグループワークを通じて、農林海洋科学に関する課題を探求し、学び合うことを目的としています。

1学期には、所属する学科やコースに関係なく、農林海洋科学部の全学生に「フィールド分野」、「海洋分野」、「農芸化学分野」すべての実習に参加してもらいます。フィールド分野の実習では、物部キャンパス内の農場で田植え実習、施設野菜栽培の見学と収穫実習、物部キャンパス内で観察できる昆虫の紹介、農林業用機械の紹介と操作実習、農林業と経済に関する講話などを体験してもらいます。海洋分野では、海洋観測とプランクトン採取、干潟の生物と環境の観察、磯の生物採集、水族館見学、海底資源観察、イソギンチャクと共生藻の観察・分析のうち、いずれかの実習に参加してもらいます。農芸化学分野では、実験室でグループに分かれて、野菜中の硝酸態窒素の測定、遺伝子とタンパク質、微生物と食品加工、土壌のpH・EC測定、プロトプラストの観察、バイオポリマーの応用、牛乳の風味と成分変化、香りの合成のうち、いずれか2つの実験を体験してもらいます。フィールドと実験室を行き来しながら、農林海洋科学のスケールの大きさを体感し、ワクワクする気持ちを育ててもらえることを期待しています。2学期には、所属するコースに分かれ、より専門分野に関連する実習や見学を行います。同じコースの仲間とともに、これから4年間をかけて学ぶ専門領域の奥深さを感じてください。

この授業は新生が所属コースの垣根を超えて交流し、友人をつくる絶好の機会でもあります。農林海洋科学の世界にワクワクしながら、気の合う仲間をたくさん見つけて、充実した大学生活をスタートさせてください！



地域協働学部
学び創造センター

俣野 秀典

「課題探求実践セミナー」は能動的・主体的・探求的な学びへの転換を支援する授業です。初年次科目のなかでも学生の自律的な学習に重点がおかれ、グループワークを学習方法の基本に据えて、学生自身が自己分析や振り返りを行うことで学びや成長への見通しを持っていくところに特徴があります。

「課題は何か?」「見える／見えない課題は?」「課題同士の関係は?」など、1年生の2学期以降の本格的な大学での学び・研究の前段階として、さまざまな場に身を置きながら、「探し求める」を体感していきます。自分なりの「問い」に出会っていくステージです。

地域協働学部の課題探求実践セミナーでは、五感を活用した地域の観察と、サービスラーニング(活動の手伝い)の中でのコミュニケーションを通じて、地域の実情を把握していきます。また、グループ活動を通じて、学生同士の相互理解を深め(人数が少ないことも手伝ってか同期の仲はとても良いです)、地域協働学部での実践的な学びについて考えます。そしてその中で、「事前学習→学外実習→振り返り」という地域協働学部的学びのスタイルを身につけます。

とくに「振り返り」は、体験を学びに繋げるための重要なキーワードです。「成功した」「失敗した」などで、せっきくの体験を終わらせるのはもったいなくありませんか? 「振り返り」では、皆さんそれぞれが気づいたことや考えたことをもとに、未来に向けて、その意味や新たなアクションをつくっていきます。さらに、自らの経験を言語化し、他者に伝える際のポイントなども習得します。

地域協働学部のカリキュラムの柱は実習です。見通しを立てて行動する。そして振り返る。この基本をしっかり理解できる本授業は、1年生の1学期という最高のタイミングで、ワイワイガヤガヤな雰囲気で開催されます。新しい環境、新鮮な体験から、仲間と一緒にいろんな「問い」を探求していきましょう。

教養科目の意味

共通教育実施委員会 FD 部会長
波多野 慎悟

共通教育実施委員会のFD部会長を務めている理工学部の波多野です。FDとはFaculty Developmentの略で、教員の教育能力を高めるための組織的な取り組みのことを表します。FD部会は、共通教育の各分科会のFD活動を支援しています。

本来ならここではFD活動について書くべきと思いますが、最近少し気になったことがあったので、今回はそのことについて書いてみたいと思います。

ある学生から「教養科目に興味のない授業を受けないといけないのが嫌。意味がわからない。」というような話を聞きました。気持ちはわかります。私も大学1年(約30年前)のときに「良くわからない異分野の授業を受けるのは面倒くさいな」と思ったものです。特に記憶に残っているのが『正義とヒステリー』という中世ヨーロッパの倫理観に関する授業です。中世の倫理観が私には全く共感できず、課題提出の際も共感できないことを前面に押し出したレポートを書いていた。その結果、3回に1回くらいはダメなレポートの例として挙げられていました。現代の学生だとショックが大きいかもしれませんが、当時の私は「あの先生とは考えが合わないだけ」と思うだけで大したダメージもなく、評価はともかくレポートを出している以上、単位は落とさないと楽観的でした。異分野の授業は嫌だなあと思いつつも、授業を受ける意味までは深く考えず、楽観的だったのは幸いだったかもしれません。

ただ、歳をとって色々経験してみると、「当時の私は自分の考え(視点)だけで物事を語っていたのではないか?もう少し時代の背景を理解できていれば違った捉え方もできていたのではないか?」というように、考え方が変化してきました。

自分の中の変化から気づいたことは、学びの中には即効性のものであれば遅効性のももあるということです。自分の専門に近くて興味があることは、授業を聞いてすぐに吸収できる即効性の学びです。一方、自分の興味から離れた内容の授業は、その時は学びの実感がなく、経験を重ねて、自分が分かることの範囲が広がった時に、初めて気づけるような学びなのだろうと思います。

大学を卒業して社会人になっても学びは続きます。今は意味が分からないようなことでも、とりあえず経験しておくとなんか役に立つかもしれません。「無駄な経験はない」、「失敗は成功のもと」と言うようなポジティブ思考をもって、今は色々な分野の授業に触れてみて、教養の幅が広がる素地を作っておくと良いと思います。

また、教養科目の目的には幅広い教養を身につけることに加え、多角的な視点を身につけることもあります。これまで自分が触れてこなかった分野の授業を学び、そこで他学部の学生の考え方に触れることで、「自分と異なる考え方に触れる」、「自分の知らないことを知る」といった経験ができます。これは「多角的な視点」を持つきっかけになります。多角的な視点を持つと、他人の考えを理解し良好な人間関係を築ける、色々な発想が浮かぶ、といったメリットが期待できます。これから社会に出ていく学生にとっては意味があることです。

経験は必ず自身の学びにつながります。学生の皆さんには、あまり難しく考えず「とりあえず色々経験してみよう!」という気持ちで教養科目を楽しんでいただけたらと思います。

多角的な視点を持つと、
他人の考えを理解し
良好な人間関係を築ける、
色々な発想が浮かぶ。

学務課 全学・共通教育係より

はじめまして。令和7年4月に学務課全学・共通教育係に採用になりました川崎と申します。

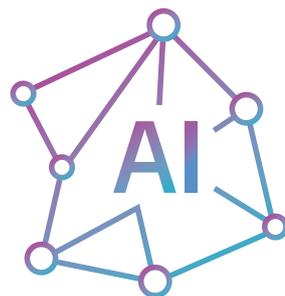
この執筆を依頼されたとき、「生成AIに文章を考えてもらおう」そんな考えが頭をよぎりました。

生成AIが大きく注目されるようになった昨今、仕事をする私たちのみならず、学生の皆さんにも生成AIは大きな影響を与えているのではないのでしょうか。

生成AIは何でもすぐに教えてくれるし、解決してくれる。私たち事務職員もこの生成AIを使って業務を改善しようという動きが日に日に大きくなっています。私も頻繁に利用していますが、一方で、自分の考える力が衰えていくことに恐ろしさも感じています。生成AIはなんでも考えてくれるが故、自分で考える間もなく検索して答えを見て満足する、これは果たして本当にいいものなのでしょうか。大学生の皆さんが、大学を卒業して仕事で答えのない課題に直面した時、人生の岐路に立った時、間違った情報に流されそうになった時、一度立ち止まって自分で考えて行動する力が必ず求められるはずですよ。

大学の共通教育科目は思考力を伸ばすという点において非常に有効な授業であると感じています。多様な分野の授業があるため、自分の興味のある授業ばかりではないかもしれません。でも、その授業の中で疑問点を見つけ「なぜそうなのか」と問いを立ててみる。問いに対する自分なりの仮説を立てたあとに生成AIに聞いてみるというのはどうでしょうか。この少しのステップが思考力の低下を防いでくれると私は考えます。

生成AIに対して批判的な立場でここまで書いてきましたが、考える補助的役割として非常に心強い味方になっていると感じていて、生成AIを使わずにこの文章を書こうと意気込んだものの、実際のところ「生成AIについて生成AI自身がどんな考えを持っているのか」を聞きながらここまで手助けしてもらったのも事実です。生成AIはうまく使うことができれば、必ず自分の人生のスキルアップにつなげることができると思います。共通教育科目という思考力を伸ばすことのできる抜群の機会を十分に生かして、生成AIとうまくやってほしいです。



編集後記

高知大学の共通教育の新体制が始まりました。前(64)号は、その開始を告げる記念発行としての位置づけでしたが、今後は、新体制下における新たな枠組みを順次紹介していくこととなります。早速、本65号の特集は、「導入科目群・大学での学びかた科目:大学基礎論、学問基礎論、課題探求実践セミナー」です。それぞれの学部を担当の先生方に執筆をお願いしました。特に、各学部の新入生のスタートダッシュに役立つ内容になっているので、是非ご一読ください。(Y)

高知大学共通教育広報誌  [ハイライン]
PipeLine No.65

発行 / 高知大学共通教育実施委員会
編集 / 共通教育実施委員会広報部会
〒780-8520 高知市曙町2丁目5-1
☎088-844-8168(学務課全学・共通教育係)

発行日 / 2026年3月
制作 / ㈱西村謄写堂

広報・記事についてのご意見をお待ちしています。
Mail : gm06@kochi-u.ac.jp